

1 制度の沿革

職員提案制度は、行財政改革を推進する取組の一環として、平成10年度から開始し、適宜、仕組みの検討を行いながら実施してきました。

特に、令和3年6月に策定した「第1期小平市経営方針推進プログラム」においては、実施プログラムとして「職員提案制度の見直し」を掲げ、時代に合った柔軟な発想など、幅広い意見を生み出せる職員提案制度に向けた見直しを行うものとしています。（担当課：行政経営課）

これを受けて、令和4年度からは、小平市第四次長期総合計画基本構想の自治体経営方針に基づく制度として再構成し、これに沿った提案を募集するものとして実施しました。

2 実施目的

職員に市政全般に関する創意工夫の提案及び改善を奨励することにより、職員の意識改革及び組織の活性化を図り、市民サービスの向上と効率的・効果的な自治体経営に寄与することを目的とします。

3 提案の応募状況

【募集期間】5月26日～6月27日

【応募件数】29件（単独29件、共同0件）

【提案区分の内訳】 ※提案者による複数選択

(1) 市民サービスの向上に関するもの	12件
(2) 市の活性化、まちづくりに関するもの	6件
(3) 事務改善に関するもの	8件
(4) 経費削減又は収入の確保に関するもの	12件
(5) 組織の活性化に関するもの	6件
(6) その他自治体経営方針に関するもの	6件

■職員提案に対する審査の流れ



4 検討を進める対象となった職員提案

審査の結果、次の13件の提案について、検討を進める対象として採用しました（うち4件は趣旨採用）。以下、各提案を主な提案区分により分類し、その概要をまとめました。

採用された内容に基づき、関係課において実現に向けた検討・取組を行います。

(1) 市民サービスの向上に関するもの

◆ウェブフォームによる参加申し込み方法の採用【趣旨採用】

《提案概要》現在、市の行事や催しへの参加申し込み方法は、①電話、②はがき、③電子メール、④所定の紙ベースの申込み用紙を窓口へ直接提出または郵送提出、FAX提出、⑤ウェブフォームへの入力などのいずれかまたは全部としている。事務作業を進める過程での効率性や、市民の利便性向上、個人情報保護の観点から、市の行事や催しへの参加申し込み方法を、原則、⑤ウェブフォームへの入力によるものとし、その他の方法については必要に応じて取捨選択するものとする。

《主な評価ポイント》

・取組効果が期待できる一方、ウェブが苦手な人の申込みが減ることにつながる。申込みのチャンネルを増やすことで、申込数が上がるとも考えられる。一律ではなく募集内容ですみ分けてみては。

※不便に感じる方への配慮が必要と考えられるため、趣旨採用とした。

《関係課における当面の取組の方向性》

イベント申込みを想定した提案だが、他の提案（行政手続案内、行政手続申請）との関係において、すみ分けなどを考慮し検討する。

◆市ホームページ等における手続ガイドの導入

《提案概要》市民の転出入、結婚、離婚、出生、死亡等に係る手続がいくつもある中、自分がどのような手続が必要か既存のホームページでは分かりにくい面がある。そこで、スマートフォンやウェブから、質問に答えていくだけで自分に必要な手続がわかる、市民向けの手続案内サービスを導入する。

《主な評価ポイント》

- ・電話やメールでの問い合わせから、シフトチェンジしていく機能として有効。
- ・別提案（行政手続のオンライン化「スマート申請の導入」）と組み合わせることにより、DX推進に寄与するものとする。

《関係課における当面の取組の方向性》

行政手続案内を想定した提案だが、他の提案（イベント申込み、行政手続申請）との関係において、すみ分けなどを考慮し検討する。

◆行政手続のオンライン化「スマート申請の導入」

《提案概要》書面により行っている転出届や各種証明書等の申請手続などについて、24時間どこからでも手続を可能とし、手続完了までの時間の短縮を図るとともに、窓口繁忙期の来客の集中を避け、事務の効率化などを行うため、スマートフォン等を使用して申請を行うことができる「スマート申請」のサービスを導入する。

《主な評価ポイント》

- ・他自治体のように、交付金が活用できるか、ランニングコストがいくらになるのか、がポイント。
- ・別提案（市ホームページ等における手続ガイドの導入）と組み合わせることにより、DX推進に寄与するものとする。

《関係課における当面の取組の方向性》

行政手続申請を想定した提案だが、他の提案（イベント申込み、行政手続案内）との関係において、すみ分けなどを考慮し検討する。令和5年度実施予定。

◆小平市専用封筒へのQRコード印刷

《提案概要》封筒（小平市専用）にホームページURLが記載されているが、URLは利用しづらく、スマートフォン等が普及している現状にあっていない。そこで、スマートフォン等を利用し、簡単にアクセスできるように、小平市封筒にホームページURLだけでなく、QRコードを印刷する。公式LINEアカウントの登録者増に繋げるため、PR情報として、公式LINEアカウントのQRコードを封筒に印刷する。

《主な評価ポイント》

- ・スマートフォンの普及状況などからしても、時代に即した取組である。
- ・封筒という媒体を通じて公式LINEでどのような情報発信をしていくかが重要と考える。

《関係課における当面の取組の方向性》

実施に向けて検討を進める。令和5年度実施予定。なお、窓口用封筒には印刷済み。

(2) 市の活性化、まちづくりに関するもの

◆浴衣でおさんぽinあじさい公園

《提案概要》例年行っている「こだいらあじさいまつり」PR時に、浴衣での来訪を案内する。ふるさと村までの散歩コースを案内し、ふるさと村を涼みスポットとする。小平駅周辺の飲食店等において、浴衣で利用した場合に何らかのサービスを行う。若者世代やあじさい公園を訪れたことのない方への興味関心・来訪を喚起することができる。灯りまつりの案内などを行うことで、再訪の可能性を上げることができる。フォトコンテストやサービスパスポートなどとの連携による相乗効果を生み出すことも可能。小平駅を中心とした小売店舗の売上の向上、まちの活性化・賑わいを創出することにも繋がる。

《主な評価ポイント》

- ・インスタ映えするためか若い人もあじさい公園のライトアップには訪れており、連携もしやすいと考える。
- ・多文化共生の視点など発展性もあると思う。

《関係課における当面の取組の方向性》

トライアル実施に向けて検討を進める。令和5年度実施予定。

(3) 事務改善に関するもの

◆UDトークを活用した会議録作成

《提案概要》市の附属機関等の会議録作成にあたっては、原則、市が無料のライセンスを取得しているコミュニケーションアプリのUDトークを使用して文字起こしをすることとする。UDトーク用のタブレット端末等の使用環境を整える。会議録作成にあたって、職員が録音した音声を聞き返しながらパソコンで文字を入力する作業の一定程度を削減することができる。

《主な評価ポイント》

- ・自治体経営方針の「DXの推進（ICT活用による内部事務の効率化）」の推進に資する取組である。
- ・機材導入経費と会議録を作成している会議を集計してバランスよく実践していけるよう検討していくとよい。

《関係課における当面の取組の方向性》

実施に向けて検討を進める。令和4年度から実施。

◆身だしなみ3原則に基づく被服貸与の一部廃止

《提案概要》市では小平市職員被服貸与規程に基づき、事務職員については事務服が貸与されるが、会計年度任用職員や窓口業務委託などが混在する中、来庁者が職員を識別する要素となっていない。また、テレワークの推進など、事務服を着用する機会の減少も想定される。そこで、事務職員への事務服貸与を廃止し、身だしなみについて考えるきっかけとする。

《主な評価ポイント》

- ・統一的なマナーを押さえた上で、実現できる取組であると考ええる。
- ・相手にどのような印象を与えたいかがポイントになる。ルールの構築が重要になる。

《関係課における当面の取組の方向性》

必要となる調整を行い、検討する。

(4) 経費削減又は収入の確保に関するもの

◆個別ごみ箱の廃止（又は制限）、共用ごみ箱の設置【趣旨採用】

《提案概要》現在の職場は、各机の近くに個別ごみ箱が設置されているが、職員が躓くケースがあるほか、窓口から見る景観もよくない。近くにごみ箱があることにより、ごみを捨てることに抵抗がない状況にある。個別ごみ箱を廃止（個数を制限）して、各課で共用ごみ箱を設置することで、上記の問題の解消に繋げる。

《主な評価ポイント》

- ・事務机脇に設置しているごみ箱から、ごみがあふれている光景を目にすることがある。各公共施設では利用者にごみの持ち帰りを呼び掛けていることや、市としてごみ削減に取り組んでいることから、市職員の意識向上は課題である。プラスチックの分別もあいまいになっている印象であり、取組として強化するべき。
- ※ごみ減量を目指すのであれば別途の意識改善策が必要と考えられるため、趣旨採用とした。

《関係課における当面の取組の方向性》

提案趣旨を踏まえた取組のトライアル実施に向けて検討を進める。

◆テレビ等ロケの適切な対価徴収

《提案概要》現在、市役所庁舎や公民館、体育施設で、テレビ等のロケを希望する団体が当該施設等を使用する際は、各施設の使用料条例等で使用料等を徴収できる場合がある一方、該当する徴収根拠がない場合については対価を徴収できていない。一定時間、当該施設を撮影等のために占用したいという希望があるケースに、何らかのコストが掛かっているという収支がアンバランスな状態を解消するため、テレビ等のロケを希望する団体が当該施設等を使用する際に適切な対価を徴収できるよう、例規類等の整理を行う。

《主な評価ポイント》

- ・自主財源確保の視点から、制度として整えることは有効と考える。他の自治体の事例では、行政財産使用料条例の中で、「市の広報に資するロケーション活動(映画、テレビ、ドラマ、コマーシャルメッセージ等の撮影をいう。)に使用する場合における施設区分、撮影場所及び使用料は、別表のとおりとする。」と規定している。

《関係課における当面の取組の方向性》

例規等の改正に向けた検討を行う。

◆ふるさと納税返礼品 旬の味覚狩り

《提案概要》半日で行ける場所でのイチゴやブルーベリー、小平梨、東京ゴールド（キウイ）などの収穫体験（お土産付き）（コト消費）を返礼品として、主に都市部の住民からの寄付を募る。これにより収穫にかかる農業者の負担軽減を図るとともに、身近にある都市農業の良さを実感し、農業の大切さの理解促進を図る。また、返礼による収穫体験をきっかけに、販路の拡大を図る。

《主な評価ポイント》

- ・小平市らしいふるさと納税返礼品として、関係者と調整する価値はあると考える。
- ・収穫のみでは都市農業の現状や苦勞を知っていただくのは難しいが、市の農産物のおいしさを知っていただくにはよいと思う。

《関係課における当面の取組の方向性》

提案趣旨を踏まえ、実施の可能性について、関係者等と調整を進める。

(5) 組織の活性化に関するもの

◆連続5日間の有給休暇取得の奨励【趣旨採用】

《提案概要》職員一人ひとりに連続5日間の有給取得を義務化する。これにより、土日と合わせて連続9日間の休暇となり、有給取得率の向上、病休の減少などの効果を期待する。

《主な評価ポイント》

- ・連続5日間はハードルが高いが、ゴールデンウィークや夏季休暇、年末年始休暇を除き、有給休暇をうまく活用して連休を取得できるよう、職場で互いにコミュニケーションを図りながら仕事を進めていく機会となるとよい。
- ・連続5日間休暇を取得するために自分の仕事をコントロールしたり、タイムマネジメントを促す良い機会につながると考える。

※休暇は義務化するものではなく奨励するものと考えられるため、趣旨採用とした。

《関係課における当面の取組の方向性》

提案趣旨を踏まえた取組の実施に向けて検討を進める。

◆統一フォーマット入力による受講研修履歴の見える化

《提案概要》現在、所属課長が個人別研修台帳により、所属職員の受講研修を管理している。この研修台帳は紙ベースで、時系列に記録されており、各職員自らが受講した研修の種類や培った要素を把握するのは困難である。そこで研修受講後、当該職員が自ら、定められたフォーマットに受講日、研修名、学んだ研修要素を入力、研修報告とともに所属長にデータで送付することとする。必要なチカラの要素を自ら意識して獲得しようとする主体性が育まれるとともに、自己を客観的に評価することができる。

《主な評価ポイント》

- ・ペーパーレス化の観点からも、データ化を進めるべきと考える。
- ・現状より見える化が進むので、状況がわかりやすくなる。人財育成につなげるための具体的な活用が大切。

《関係課における当面の取組の方向性》

実施に向けて検討を進める。令和5年度実施予定。

◆「立ち会議」の開催【趣旨採用】

《提案概要》行政課題の複雑多様化により、部間を横断する課題への対応が増えており、様々調整会議が行われているが、会議室は慢性的に不足している状況である。書類の発送業務や市民対応のために確保している場合、また外部の委員が参加する会議など以外は、机椅子は必須ではないと考える。そのため、庁舎のスペースを活用した立ち会議により、会議室不足を解消する。具体的には、庁舎6階旧喫煙スペースを復元し、台やホワイトボードを設定し、会議スペースとして活用する。

《主な評価ポイント》

- ・防音・目隠しの機能も実装して、会議室と遜色がないようにしてみてもどうか。
 - ・座らないことで時間短縮には多少繋がると思うが、収容人数の関係もあるため、会議での使用は難しいのではないかと。打合せスペースの増設にはなると思うが、ケース会議のような場には適さないと思われる。
- ※より適当な場所を検討すべきと考えられるため、趣旨採用とした。

《関係課における当面の取組の方向性》

提案趣旨を踏まえた取組の実施に向けて検討を進める。令和5年度実施予定。